



(トルポルパン)

2011年1月は「むくげの会」40周年、2012年1月は「むくげ通信」発刊250回記念号発行と毎年おめでたいことが続いています。ますますの発展をお祈りします。

私が「むくげ通信」に初めて書いたのは「朝鮮訪問記」でした。会の皆さんより先に朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）へ行ったということで、ゲストデーにスライドも見ていただきました。

原稿は手書き。未完成の原稿をセンターに持ち込み、皆さんに待ってもらって書き上げたのを思い出します。その原稿につけた地図に間違いがあることに気がつきましたが、後のまつり。ずーっと気になっていましたけれど、もう時効にしていただけでしょう。

「むくげ通信」を毎号楽しみに読んでおられる我らが先輩、森行雄さんに連絡することがあったので、通信のことも伺ってみたところ、次のようなお便りをいただきました。

「苗代川出身の自分史探索で、日本に残る朝鮮探しをする中で本誌と出会い、朝鮮に関心お持ちの方の多さに、正直驚いたものです。あれだけ必死で隠し続けた出自発表も、往年の名歌手・永田次郎が金永吉だったのも、私と同じ苗代川出身者との文通も……本誌や本誌関係者のお陰は書ききれません。まずは高齢愛読者のお祝いまで」森さんは100号記念にもメッセージを寄せておられます。去年の40周年に聞かせてもらった「銀座の雀」は昔と変わらず名テノール歌手でした。

また、11月に韓国浦項のホテルで出会った東京の在日二・三世の母娘に最新号を送って聞いてみました。先にホームページで「むくげの会」を見つけていた娘さんは、100号記念に和田春樹さんの名前が出ていたのが驚きで、「むくげの会」を身近に感じたそうです。通信を見た彼女は「とてもきれいに

## 250号 おめでとう

足立 龍枝

印刷されていて、完璧で長い歴史を感じた。写真・イラストが入っているので分かりやすいページになっている。最後のページが、韓国・朝鮮関係の論文目録というのも驚いた。民族教育を受けた彼女は、音楽のページの着眼点がおもしろいと、とても気に入ったようでした。

68歳のオモニムからは、韓流大好きな友人が「むくげ通信」を見て「もっと早くから韓国を勉強すればよかった」という感想を述べていたというメールが届きました。

私は志村さんの表紙の絵にあこがれて、韓国ではスケッチブックを持ち歩くときがありますが、なかなか描けないものです。



(ポスターより)

ところで、249号に書かせていただいた「崔承喜」は、11月24日に中国・朝鮮で生誕記念行事があり、次々と情報を寄せてもらった。朝鮮舞踊研究所の姜輝鮮先生は、ピョンヤンで行われた式典に出席されたそうで、1955年に初演された民族舞踊劇「沙道城物語」の大ポスターをバックに写した写真を見せていただいた。

書ききれませんでした。崔承喜が中国北京で舞踊研究所を開くことになったのは、朝鮮戦争のさ中、金日成首相と周恩来首相の話し合いによるものですが、周恩来首相が大の崔承喜ファンだったことも付け加えます。

「むくげの会」50周年は2021年、「むくげ通信」300号は2020年、この年を目標に健康でありたいと願いながら……朝鮮半島に平和がはやく訪れますよう祈りながら…… 2012年1月29日



済州空港から漢拏山  
(東方)を眺めて